盛岡地区 第17回（令和5年度）盛岡地区かわまちづくり懇談会　実施状況

開催日時：令和5年12月21日（木）　10:00～12:00
開催場所：岩手河川国道事務所　2階大会議室

1.　委　員　　（五十音順）　　敬称略

氏名	所属等	備考
伊藤（いとう）　歩（あゆみ）	岩手大学　理工学部　教授	
小笠原（おがさわら）　敏記（としのり）	岩手大学　理工学部　教授	欠席
木下（きのした）　光子（みつこ）	盛岡商工会議所　女性会　理事	
金野（きんの）　万里（まり）	NPO 法人　いわて景観まちづくりセンター　理事	
倉原（くらはら）　宗孝（むねたか）	岩手県立大学　総合政策学部　教授	【座長】
松浦（まつうら）　直人（なおと）	一般社団法人　盛岡青年会議所　専務理事	
寺井（てらい）　良夫（よしお）	NPO 法人　もりおか中津川の会　理事	
原子（はらこ）　崇史（たかし）	盛岡商工会議所　産業振興部長	
滝村（たきむら）　敏道（としみち）	盛岡市　都市整備部　都市整備技術監	代理出席
藤谷（ふじや）　徹（とおる）	盛岡市 交流推進部 観光課長	代理出席
近藤（こんどう）　修（おさむ）	国土交通省　東北地方整備局　岩手河川国道事務所長	

2.　オブザーバー

藤原（ふじわら）　俊夫（としお）	岩手県県土整備部 都市計画課　景観まちづくり課長	欠席

3.　事務局

玉山（たまやま）　祐司（ゆうじ）	盛岡市 都市整備部 公園みどり課長	
平山（ひらやま）　修剛（しゅうごう）	盛岡市 都市整備部 公園みどり課　計画係長	
松田（まつだ）　諭（さとし）	盛岡市 都市整備部 市街地整備課　まちなか未来創生室長	
松野（まつの）　和彦（かずひこ）	盛岡市 都市整備部 市街地整備課　まちなか未来創生室　主査	
羽田（はだ）　公彦（きみひこ）	盛岡市 交流推進部 観光課　事業推進係　主任	
木村（きむら）　晃（あきら）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所 副所長	
小原（おばら）　竜光（りゅうこう）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所　専門調査官	
後藤（ごとう）　淳一（じゅんいち）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所　工務第一課長	
小野寺（おのでら）　淳（あつし）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所 占用調整課長	
杉田（すぎた）　誠司（せいじ）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所 盛岡出張所長	

第17回（令和5年度）盛岡地区かわまちづくり懇談会

日時：令和5年12月21日（木）
10：00~12：00
会場：岩手河川国道事務所　2階　大会議室

―　次　第　―

1. 開会
2. あいさつ
3. 出席者自己紹介
4. 議事
   (1) 前回懇談会および今年度勉強会の結果等　報告
   (2) 水辺空間利活用状況　報告
   (3) モニタリング・フォローアップの経過　報告
5. 意見交換
   (1) 河川空間のオープン化等について
6. その他
7. 閉会

（配布資料構成は裏面参照）





主な意見	事務局からの対応
①次回以降の勉強会の開催について	
【議題】中津川Gと北上川Gの2つのグループに分けて開催してきた勉強会について、次年度以降、元に戻して1つの会とする。 【意見】⇒異議なし。	● 次年度以降のかわまち勉強会は、中津川、北上川のグループ毎とせず、従前の全体会として開催する。 ● 勉強会メンバーは、各所属団体より最大2名程度として、15名程度の構成とする。 ⇒第19回勉強会（R6.7.19）、第20回勉強会（R7.10.21）を上記方針で実施
②河川空間のオープン化について	
● 景観について、色合いや素材などをコントロールするガイドラインのようなものを用意する予定はないか。	● 現在のルール、ガイドラインは最低守りながら、さらにオープン化により懸念されることがあれば、デザイン上の制約や景観誘導を今後検討していく。
● 地元の賛同や事業に取り組まれる方の見通しなどがあれば教えてほしい。 ● 丁寧な進め方も大切であるが、スピードアップできないものか。北上川で成功実績をつくって、その他の場所でもオープン化を目指したいアイデアがある。 ● 事業者を選ぶときの審査のポイントというのは何かあるのか。	● 令和6年4月に市場調査を実施し、5月末に結果を公表した。 ● 個別対話等の意見を受けて、より実現可能な形での河川空間の利活用方針を検討してきた。 ⇒勉強会での検討を経て、今回懇談会にてオープン化要望書案を作成（資料4）
● 北の実施事例が少ないのは通年活用が難しいからというのがある気がする。通年使えるような国内外での活用事例などを調査するとよいのではないか。	● 北海道など積雪地事例を収集し、通年利用可能性を含めて調査検討を行った。 ⇒積雪地事例（参考資料1）などを収集したが、当地区の利活用実態もふまえて、冬季を除く一時占用を中心としたオープン化を検討（資料4）
● 北上川と中津川の合流点のあたり、春の一時期だけだがスイセンが非常にきれいな場所がある。 ● 中津川のふかくさ前での経験では、人が入って踏みしめてもらうことで背の高い草が抑えられる。乾杯など河原で楽しんでいただく機会を増やすことで波及効果も高い。	● いただいた情報などを含めて、指定区域内のその他の魅力について、確認・情報発信をしていく。 ● オープン化への取組を通じて、河原へ足を運んでいただけるようなイベントなどを検討していく。

主な意見	事務局からの対応
③モニタリングフォローアップ経過報告について	
【議題】モニタリングの実施状況と評価指標について 【意見】⇒特に意見なし。	● 令和7年度までモニタリング調査を継続し、提示したメイン指標やサブ指標を使って、傾向をつかんでいく。 ⇒今回懇談会にてモニタリング結果を報告（資料3）
④その他	
【治水事業の取組】 ● 木伏ができたときにはとてもわくわくした記憶がある。川という良い舞台装置を活かしていくのに、色々な意見を聞きながら、上流域の中州掘削工事や浚渫工事など川の安全性を保った上で有効活用ができればよい。	● 河川の治水事業についても継続して取り組んでいく。
【イベント等の広報周知について】 ● イベントの開催告知は、盛岡市広報等を通じて市民は知ることになるのか。	● オープン化後は事業者主導による広報周知などが想定されるが、市も連携して情報を発信していく。 ● モニタリングの結果も参考に、より効果的な広報周知方法について検討する。
【世代間交流について】 ● ローカルSDGsというものを勉強する会を開いたが、SDGsやカーボンニュートラルなど環境に係ることは大人よりも子供のほうが知見があり、若い人たちの力を借りていくのが大事だと思う。また、それにより地域の資源というものに対して愛着を持ってもらって、大事にしてもらうという心は養っていけたら将来につながると思う。	● 今後の勉強会や取組の中でもいろいろな世代が交流できるような運営等を検討していく。